

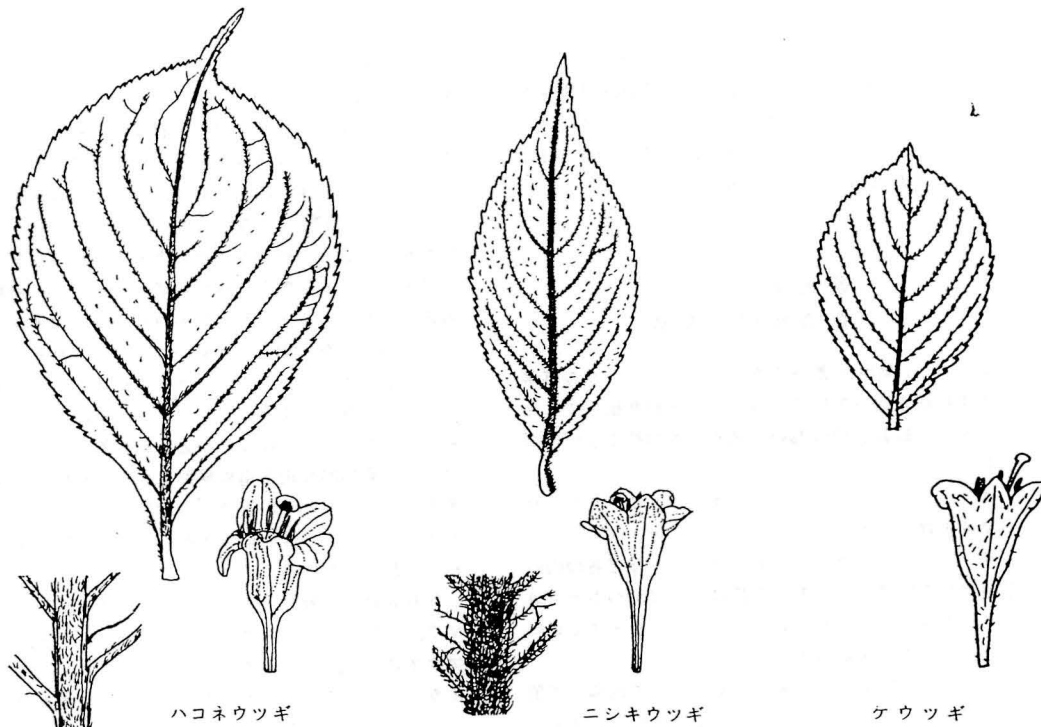
FLORA KANAGAWA

JUL. 20. 1980

神奈川県植物誌調査会ニュース 第4号

231 横浜市中区南仲通り5-60 神奈川県立博物館内
神奈川県植物誌調査会(振替口座 横浜 10195)
TEL 045-201-0926

No. 4



ハコネウツギ・ニシキウツギ・ケウツギ

ハコネウツギは海岸から沿海地の平野部に、ニシキウツギとケウツギは山地生でブナ帯の高い所まで分布しています。三者とも典型的な形では容易に識別できますが、花や葉形に変化が多く、互いに接して生えているような所では雑種ができ分類が難しくなります。

この類は崩壊地や道端などの裸地に真っ先に侵入して定着するいわゆる先駆植物です。したがって崩壊地や道路の法面の緑化にも使われ、箱根・丹沢山地に見られるハコネウツギは栽植したものかも知れません。花は5〜6月の梅雨前に咲き、すでに花期は過ぎています。三種の見分け方について述べて見ます。

ハコネウツギは海岸生では葉は厚く、強い光沢があり、毛は殆んどありませんが、沿岸地の平坦地のものはとても鈍り、裏面に毛が見られるようになります。毛の変化は多いようですが、ニシキウツギの毛とは明ら

かに異なっています。花冠は上半部が急にふくらみ太くなります。

ニシキウツギはハコネウツギに比べ、葉も小形で光沢がなく、裏面の中肋上には屈毛が密生し、葉の先はしだいにふくらみます。ところが箱根、丹沢山地の道沿いにはハコネウツギが生えていて、ニシキウツギとの間にいろいろな段階の中間形が見られます。これは両種の自然雑種でハコネニシキウツギと呼ばれるものです。ほかに花冠の形はニシキウツギによく似ていますが、花は初めから赤く、葉柄は殆どないかまたは長さ3〜5mm、裏面中肋の毛はさらに著しいフジサンシキウツギが知られています。

ケウツギはビロードウツギともいわれ、花は初めから濃紅色で外面には毛が多くあります。枝や葉柄は赤味をおび、葉の裏面中肋や側脈上には立毛が著しく、子房、がく、葉柄など全体に毛の多い種類です。葉柄は長さ1〜3mmで短いところはフジサンシキウツギに似ています。

(高橋 秀男)

横浜南ブロックから

(MIN) 南区六ツ川・山王台方面を歩く、かつてはクマガエソウ、シラコスゲ、シンミズヒキ、スズサイコがあったが今はない。それでもイヌガンビを2本見出し、貧弱ではあるが1本を標本とした。確か本種は大船今泉附近にもあったと記憶するが、横浜では珍品かと思う。他にはケンボナシ、ヤマラッキョウ、イヌコウジュ、アブラスキ、ヤマハタザオ、ワレモコウを見た。(OCT., 21. 1979)

(MIN) 南区別所方面、セイタカヨシ、コウヤボウキ、ヒヨドリバナ、ミドリヒメワラビ、オオベニシダなどを採る。(OCT., 17. 1979)

(ISO) 磯子区永取沢大谷戸左俣方面を間部泰助氏と歩く。ヘラシダ、オオハナワラビ、ヤマネコノメソウ、カラタチバナ、フユイチゴ、サイハイランなどを見た。(MAR., 2. 1980)

(長谷川 義人)

県北ブロック

学習会状況の報告

3月16日(鳥屋) 農家の裏山でフクジュソウの群落が美事に咲き誇っている。残念ながら自然植生ではないようで、観賞価値は高いが調査目的の標本価値は疑わしい。

4月20日(焼山) 早春の山にキクザキイチリンソウが楚々と咲く。タチネコノメソウ、アカネスマレ、エイザンスミレ、ナガバノスマレサイシンなど春の山の常連が顔を出す。クロモジの花はよく目だがヤマコウバシの花はうっかり見おとしそうだ。ヒナスマレに出会ったのが印象に残る。

4月29日(石砂山) 大場先生も同行して指導して頂く。足もとにはフデリンドウ、スマレ、アカネスマレの咲く道。ヤマツツジの赤が緑の中に点在。コウゾ、サルトリイバラの花期の標本を採る。カンアオイも雑木の伐採あとに多数散在。ドクウツギが盛花期で、触れると花粉の黄色い煙が立つ。道志川河原でヤシャゼンマイがある。ランヨウアオイも花をつけている。花はないがヒトツバシヨウマ、ダイモンジソウ、イワギボウシ、カナウツギの着く壁にヒメウツギが咲く。足もとのナルコスゲで大場先生の説明がはじまる。水流にそって、時には根ざわが水に洗われるようなところにこの植物は生える。この生態は石砂山を越えた帰路にも小川の水流の傍に生育するナルコスゲを教えられて全員納得する。道志川を渡ると株立ちのヤマオオイトスゲと走出枝で広がりをもって生えているオオイトスゲが道路の両側に斜めに向かい合って対称的である。大場先生のご説明で難解なスゲ類が少しずつ身近さを増す。コカンスゲ、カンスゲ、ヒメカンスゲ、ケスゲ、アオスゲ、ヒカゲスゲ、モエギスゲなどが顔を出すなかにハガクレスゲの説明も聞く。道端の崖にヒメカナワラビ、オオイタチシダ、ツルデンダがある。釣具店の傍の石垣にクモノスダがびっしりはりついているのを見て大場先生がカメラを構える。てっきり自然植

生だと思った私がこれは凄いと声をあげて採ろうとしたら釣具店のオヤジが大声でどなる。栽培しているのだ。興ざめして歩くうちに大場先生がサクライカグマを見つけて説明される。ヤマヤブツテツらしいのもある。オオツクバネウツギが満開だ。農道に出るとミツバツチグリ、キジムシロ、クサノオウ、カラスノエンドウ、カスマグサ、ヤブタビラコ、オニタビラコなども不精しないで採集する。

山道にかかるとキランソウ、チゴユリ、アカネスマレ(オカスマレも混生)、ウグイスカグラ、ウリカエデ、ダンコウバイ、コバノガマズミを採りつつ行く。大場先生がアケボノスマレを探そうと樹林の間を歩いて見つからぬま道に出たところでシロガネスマレを発見。山頂近くに花をつけていないがウラジロノキ、アズキナシがあり枝葉だけでも標本にと採っていると大場先生の「ヤマナシが満開だ」とはずんだ声が聞こえる。全く美事に咲いている。ヤマナシは山頂や峠のように人に憩うようなところに多いように思うから自然植生かどうか疑わしい点もあるとの説明を聞く。カスマグサも満開だ。樹皮が破れてボロボロの特徴のあるアサダもある。初めてお目にかかるオオウラジロノキの幼木を大場先生が見つけて説明される。山を下って里に出たところのタンポポに総苞片の角状突起を全く欠く株が沢山あってエゾタンポポかと迷う。大場先生はカントウではないかといわれる。オカオグルマの咲く典型的な田舎道の帰路イヌナズナの小群落がある。どういうわけか近年この植物は近郊から影をひそめつつあるとの説明に一番最近はどこで見たかとおわてて想い出してみる。

5月3日(青野原寺入沢) ヒトリシズカ、ヌカボシソウ、ウワバミソウ、カンアオイ、ケマルバスマレ、アカネスマレ、アオイスマレ、スマレ、ニョイスミレ、オカスマレ、ニオイタチツボスマレ、ミミガタテンナンショウ、ホソバテンナンショウ、ミヤマカタバミ、チゴユリ、ヒメハギ、ミヤマシキミ。花がまだなので残念なのはヒロハコンロンソウ、ジャニンジン。ジュウモンジシダ、イワデンダ、ホソバトウゲシバ、オクマワラビ、ミツデウラボシ、アオイチゴツナギ、ヤマオオイトスゲ、オオイトスゲ、ケスゲ、ヒカゲスゲ、ヒメカンスゲ、ナルコスゲ、カワラスゲ。

うれしい獲物はタチガシワ。発育の良いフデリンドウが沢山あって、一株に17の花をつけているのにはビックリ。(城川 四郎)

ブロック別植物調査 一横浜南地区一

今年度最初のブロック別植物観察会 ― 横浜南部地区 ― は早朝から雨であった。担当責任者でもあるし、どなたかお見えになっているといけないと思って、永取沢バス停へ出かけた。戸塚区の林さんと金沢区の内藤さんがお見えになっており、このドシャブリの雨ですが出かけますかと相談したところ、ぜひ出かけましょうとの返事。傘をさし、雨にぬれながらの永取沢市民の森の散策となった。

このコースはようやく春が盛り、萌えるような新緑

がきれいで、その中にサクラが点在し、しかも満開、幸い人影もなく、時ならぬ雨のお花見となった。この山地には若葉や花が赤味がかったヤマザクラのほか、白色に近い花をもつオオシマザクラが多く、かなりの大木もある。谷筋にやや花が小形で葉も小さいサクラが二株ほど、何という種類になるのだろうか？。道路に沿って植栽されているソメイヨシノも、まだ花をいっぱいにつけて華やかであった。

最初市民の森の南側の尾根道を歩いたのだが、この道の傍にはいたるところタチツボスミレの群落があり、見なれた花でもこれだけそろ々と実にみごとで、三人で賛嘆することしきりであった。他にコスミレ、シロバナタチツボスミレ、ニオイタチツボスミレ、ニヨイスミレが見られ、スミレ科の花は5種あった。

氷取沢の谷筋にはタネツケバナとムラサキケマンの比較的大きな群落があった。これも見なれたものだがきれいである。セリ摘みの適地もある。ヤマネコノメソウの小群落も点在してすばらしい。

林内には、サイハイラン、ウバユリ、ウラシマソウ、ホウチャクソウ、サラシナショウマ、アカショウマなどが多く、それぞれ地表に葉を広げている。また主としてスギ林の下だが、イノデを中心とするシダ群落が各処にあってすばらしい。雨のため林内を動きまわれなくて残念だが、フモトシダ、リュウモンシダ、ベニシダ、イワガネゼンマイなどが多い。

雨がきれめなく降り続き、写真撮影はおろか採集もままならず、峯市民の森へいくことは断念、円海山頂から尾根道を港南台駅へ出ることにした。駅近くの空地で帰化植物のキレハユスガラシらしきものを発見、これが最後の採集品となった。

同行のお2人にぜひまたこのコースを企画してほしいと言われ、ひどい雨の中をご案内した甲斐があった。

(村上司郎)

第2回ブロック別植物調査

— 県央地区 — の記録

5月11日(日)に清川村の宮ヶ瀬溪谷・馬場一唐沢キャンプ場—黒岩—丸淵—物見峠—煤ヶ谷のコースで行われた。現地案内指導は県央地区代表の秋山守氏があたり、参加者は16名であった。当日観察できた植物は次の通りである。このリストは秋山守、長谷川義人、永野武司、三輪徳子の各氏の記録にもとずき作製したものである。

羊歯植物

トクサ科 — スギナ。ハナワラビ科 — ナツノハナワラビ。ゼンマイ科 — ゼンマイ。ウラボシ科 — ヒメウラボシ。イノモトソウ科 — イヌシダ、ワラビ、オオバノイノモトソウ、タチシノブ、ハコネシダ、クジャクシダ。オンダ科 — クサソテツ、イヌガンソク、コウヤワラビ、イワデンダ、ツルデンダ、ジュウモンシダ、チャボイノデ、ツヤナツイノデ、イノデ、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ハクモウイノデ、オクマワラビ、クマワラビ、ヤマイトチシダ、ベニシダ、ゲ

ジゲシダ、ヒメワラビ、ミゾシダ、エビランシダ、ヤマイトワラビ、イヌワラビ、ニシキシダ、キョウタキシダ、ホソバシケンシダ、ミヤマシケンシダ、コガネシダ。シシガシラ科 — コモチシダ。チャセンシダ科 — トランシダ。ウラボシ科 — ノキシノブ。

裸子植物

イチイ科 — カヤ。イヌガヤ科 — イヌガヤ。マツ科 — モミ。スギ科 — スギ。ヒノキ科 — アスナロ。

双子葉植物〔離弁花類〕

ドクダミ科 — ドクダミ。センリョウ科 — フタリシズカ、ヒトリシズカ。ヤナギ科 — ヤマナラシ、バコヤナギ、シバヤナギ。クルミ科 — オニグルミ。カバノキ科 — オオバヤシバシ、ヤマハシノキ、ハシノキ、アカシデ、クマンシデ、サワシバ、ツノハシバミ。ブナ科 — イヌブナ、シラカシ、アラカシ、ウラボシ、コナラ、クリ。ニレ科 — ケヤキ。クワ科 — ヤマクワ、コウゾ、イタビカズラ、イラクサ科 — カラムシ、ウバミソウ、コアカソ。ビャクダン科 — カナビキソウ。ウマノスズクサ科 — フタバアオイ、ランヨウアオイ、カンアオイ、オオバウマノスズクサ。タデ科 — スイバ、ミズヒキ、ミヤマタニソバ、ギンギン、イタドリ。ヤマゴボウ科 — ヤマゴボウ。ナデシコ科 — ツメクサ、ノミノツヅリ、ミミナグサ、ハコベ、ウシハコベ、ミヤマハコベ。フサザクラ科 — フサザクラ。キンボウゲ科 — クサボタン、ハンショウヅル、シロバナハンショウヅル、コボタンヅル、センニンソウ、アキカラマツ、ヒメウス、ヤマトリカブト、サラシナショウマ、イヌショウマ、オオバショウマ、トウゴクサバノオ。アケビ科 — アケビ、ミツバアケビ。メギ科 — メギ。ツツジャコ科 — アオツツジャコ、モクレン科 — ホオノキ、シキミ。クスノキ科 — ダンコウバイ、ヤマコウバイ、クロモジ、アブラチャン、シロダモ。ケシ科 — クサノオウ、タケニグサ、ムラサキケマン、ミヤマキケマン。アブラナ科 — ジャニンジン、タネツケバナ、ミツバコンロンソウ、ユリワサビ、ヤマハタザオ、オオバタネツケバナ、シコクハタザオ。ペンケイソウ科 — オノマンネングサ、ヒメレンゲ、コモチマンネングサ。ユキノシタ科 — ヒトツバショウマ、アカショウマ、ユキノシタ、ハルユキノシタ、ムカゴネコノメ、ヤマネコノメソウ、ヨゴレネコノメソウ、イワガラミ、クサアジサイ、タマアジサイ、コアジサイ、ガクウツギ、バイカウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギ、シロバナネコノメ。バラ科 — コゴメウツギ、ヤマブキ、ヤブヘビイチゴ、ミツバツチグリ、ニガイチゴ、クマイチゴ、モミジイチゴ、クサイチゴ、バライチゴ、ウラボシイチゴ、キンミズヒキ、ノイバラ、オオフジイチゴ、マメザクラ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラ、カマツカ。マメ科 — ジャケツイバラ、イヌエンジュ、フジキ、キハギ、ネコハギ、ケヤブハギ、カラスノエンドウ、カスマダサ、スズメノエンドウ、ナンテンハギ、クズ、コマツナギ、フジ、ニセアカシア。フウロソウ科 — ゲンノショウコ。カタバミ科 — ミヤマカタバミ。カタバミ、エゾカタバミ。ミカン科 — イヌザンショウ、コクサギ、マツカゼソウ、サンショウ。ニガキ

科 — ニガキ。ヒメハギ科 — ヒメハギ。トウダイグサ科 — シラキ。ウルシ科 — ツタウルシ、ヌルデ。モチノキ科 — イヌツゲ。ニシキギ科 — ツルウメモドキ、イヌツルウメモドキ、コマユミ、マユミ、ツリバナ。ミツバウツギ科 — ミツバウツギ。カエデ科 — コハウチワカエデ、イロハモミジ、オオモミジ、オニイタヤ、エンコウカエデ、チドリノキ、ウリカエデ、ホソエカエデ、カジカエデ、メグスリノキ、ミツデカエデ。アワブキ科 — アワブキ。クロウメモドキ科 — オオクマヤナギ。ブドウ科 — サンカクヅル、ノブドウ、ツタ、ヤブガラシ。マタタビ科 — サルナシ、マタタビ。ツバキ科 — ヤブツバキ、ヒサカキ、チャノキ。オトギリソウ科 — コオトギリ、オトギリソウ。スミレ科 — エイザンスミレ、アオイスミレ、ケマルバスミレ、ナガバノスミレサイシン、アカネスミレ、ヒナスミレ、タチツボスミレ、コタチツボスミレ、キブシ科 — キブシ。ジンチョウゲ科 — オニシバリ。グミ科 — ツルグミ、ナツグミ、トウグミ(栽)。アカバナ科 — タニタデ。ヤマトグサ科 — ヤマトグサ。ウコギ科 — タラノキ、ウド、トチバニンジン、キヅタ、ミヤマウコギ、ヤマウコギ、ハリギリ。セリ科 — ミツバ、イブキボウフウ、ノダケ、シラネセンキュウ、ヤマゼリ。ミズキ科 — アオキ、ハナイカダ、ミズキ、クマノミズキ。

〔合弁花類〕

リョウブ科 — リョウブ。イチヤクソウ科 — ギンリョウソウモドキ。ツツジ科 — バイカツツジ、ヤマツツジ、ミツバツツジ、アセビ、ネジキ、スノキ、シロヤシオ(栽)。ヤブコウジ科 — ヤブコウジ。サクラソウ科 — コナスビ、ミヤマタゴボウ、オカトラノオ。カキノキ科 — ヤマガキ。モクセイ科 — イボタノキ、マルバアオダモ。フジウツギ科 — フジウツギ。リンドウ科 — リンドウ。キョウチクトウ科 — ツルニンジン。ムラサキ科 — ヤマルリソウ。クマツヅラ科 — クサギ。シソ科 — キランソウ、ウツボグサ、カキドウシ、トウバナ、テンニンソウ、ヤマハッカ、シソバツツナミソウ。ナス科 — ハシリドコロ。ゴマノハグサ科 — ミゾホオズキ、クワガタソウ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ。イワタバコ科 — イワタバコ。オオバコ科 — オオバコ。アカネ科 — アカネ、オオバノヤエムグラ、ヨツバムグラ、ヤマムグラ、ヤエムグラ。スイカズラ科 — ニワトコ、ヤブデマリ、ガマズミ、コバノガマズミ、ツクバネウツギ、スイカズラ、ウグイスカグラ、フジサンシキウツギ(?)。オミナエシ科 — ツルカノコソウ。ウリ科 — アマチャヅル。キキョウ科 — ツルニンジン、タニギキョウ。キク科 — ハルノゲシ、オニノゲシ、オニタビラコ、ヤクシソウ、ニガナ、オオジシバリ、ジシバリ、コウゾリナ、セイヨウタンポポ、カントウタンポポ、ヤブタビラコ、コウヤボウキ、カシワバハグマ、キッコウハグマ、オクモミジハグマ、センボンヤリ、キツネアザミ、オヤマボクチ、ノアザミ、ホソエノアザミ、モミジガサ、ヤブレガサ、ヨモギ、リュウノウギク、フキ、サジガタビソウ、ハハコグサ、ヤハズハハコ、ハルジョオン、シラヤマギク、タテヤマギク、

ノコンギク、ヤマシロギク、ヒヨドリバナ、ヨツバヒヨドリ、オカオグルマ。

単子葉植物

イネ科 — スカボ、カニツリグサ、トボシガラ、スズメノカタビラ、ミゾイチゴツナギ、イチゴツナギ、ヤマミゾイチゴツナギ、ウラハグサ、スズダケ。カヤツリグサ科 — ナキリスゲ、ナルコスゲ、コカンスゲ、アオスゲ、ヤマオオイトスゲ、オオイトスゲ、ケスゲ、ヒメカンスゲ、カンスゲ、ヒカゲスゲ、ヒゴクサ、アブラシバ。サトイモ科 — ヒトツバテンナンショウ、ホソバテンナンショウ、ミミガタテンナンショウ、クロハシテンナンショウ。イグサ科 — スカボシソウ、スズメノヤリ。ユリ科 — シロバナショウジョウバカマ、ホトトギス、イワギボウシ、オオバギボウシ、ウバユリ、ヤマユリ、ミヤマナルコユリ、アマドコロ、ナルコユリ、ホウチャクソウ、チゴユリ、ヤブラン、ジャノヒゲ、シオデ、サルトリイバラ。ヤマノイモ科 — ヤマノイモ、オニドコロ、キクバドコロ。アヤメ科 — シャガ。ラン科 — ギンラン、ミヤマウズラ、ベニシュスラン、サイハイラン、シュンラン、ユウシュンラン。

(高橋秀男)

合同植物調査 — 県北地区 —

次の通り計画しました。多数ご参加下さい。

- 期 日 8月17日(日) 午前9時 青野神社集合
横浜線橋本駅前から三ヶ木行バス(1番のりば橋本発7時15分または7時35分)に乗車、三ヶ木でのりかえ東野行バス(三ヶ木発8時5分または8時20分)に乗り焼山登山口にて下車。中央線相模湖駅からは三ヶ木行バス7時32分または7時50分。
- コース 焼山登山口—焼山(1059.6m)—青根の平丸。現地解散ですが帰路は東野発バスに平丸で乗車、青野原を通過して三ヶ木に出ます。
- 持物など 弁当、水筒、飴など非常食、雨具(傘、ビニールカップ等)、シャツ着替(ビニール袋に入れる)、手拭、帽子、履きなれた靴。(なるべくキャラバンシューズがよい)
- 注 意 暑いときの登山なので自身の健康状況に応じて無理をしないこと。雨天中止。
- ◎横浜北・川崎地区及び三浦地区の計画は都合で遅れています。こんどから上記表題で実施します。

丹沢・箱根地区の採集について

丹沢・箱根地区の分担者については、特別地域及び特別保護地区内の採集許可申請書を提出していましたが、丹沢地区20名、箱根地区23名にこのほど許可証がおりました。採集に当っては許可証の記入事項を厳守し、地区代表と連絡をとりながら重複をさけて実施し、年末には報告書を事務局へ提出して下さい。腕章は準備中ですが、シーズン中には間に合いそうもありませんので、各自適当な布で作製して下さい。